おわりに

庭づくりとチームづくり

スポーツ医・科学的トレーニング専門員会副委員長
富山大学　教授　北　村　潔　和

10年ほど前から、気分転換や健康つくりをかねて庭や畑づくりを楽しんでいる。おもに私の受け持ちはバラである。小さな家の周りの空き地に、パーゴラやアーチにツルバラを絡ませている。ツルバラは野生種に近いので育てやすい。また、狭い庭を立体的に使えるのでいい素材だといえる。最初は植木鉢に植えていたのだが、少し長い間家を空けることになり、それらを地植えにしたのがはじまりだった。今では、大きく育ったツルバラが家の周りを囲むように茂っている。

最初のうちは、名前もわからないままに、近所に綺麗なツルバラがあったら、頼んで一枝をもらって挿し木で育てていた。栽培方法を書いた本などは読まずに、最初はわからないままに、空いたところに植えていった。しかし、いざ植えてみると、元気に育つバラと、ひ弱でひょろひょろと育つものが出てきた。バラにも性質があり、それにあった環境で育てないと、うまく育たないことがわかった。

それからは、そのバラの性質の合った場所はどこかと、植え替え植え替えの連続である。剪定も然りで、うまくできないと花は咲くがそのバラの特徴をなくしてしまう。どこにどのような性質を持ったバラをどのようにして植えればうまく育つのかを考えた。それでも数年経つと、枯れなくてもひ弱なままに育つバラや、四方八方に縦横無尽に枝を伸ばすバラがでてきた。病気にかかったり、虫に食われたりするバラの多くは、性質に合わない場所に植えたバラだ。同じバラでも植える場所によって育ち方や花のつき方が異なることを知った。こんなことを繰り返しながら10年近くが経った。

庭造りに必要なのは、これらのバラが育ったときにどんな景色になるかを想像できるかである。それぞれのバラがどのように育ち、そのバラの色や形が庭全体にどのような景色をかもし

出すかである。バラそのものは、非常に強靭で枯れることはほとんどない。その性質を無視することなく、育てる者が少し手を加えるだけで見事な花を咲かせる。

バラを育て庭造りをすることは、スポーツのチームづくりに似ている。新しくは入ってきた選手の長所を見つけてそれを伸ばしていく。2年後、3年後の姿を思い浮かべながら育てていく。そして、個々の選手が育ったあかつきには、どんなチームになるかを思い浮かべながら育てていくところが共通している。

新しく植えたバラが庭に溶け込み存在感を示すのに3年はかかる。チームづくりも同じで、選手個々の適材適所を見つけてそこにコンバートする。そんな作業に精通している指導者はいいチームを育てることができるのだろう。行き当たりばったりに選手を集めて指導しても、対症療法的に指導してもチームは大きく育たない。指導者には、少し長いスパンで選手を育てて、強いチームを作ることを期待したい。